

「国語科」学習指導案

大阪府立豊中支援学校

T1 石崎 智也

T2 松原 実

T3 三田 怜奈

1. 日時 令和5年10月24日(火) 第3時限(10:25~11:10)
2. 場所 第3学年1組 教室
3. 学部・学年・組 小学部 第3学年 (ユークチューブグループ) 10名 3段階
4. 単元(題材)名 「じぶんではなしてみよう」

5. 児童観

本グループは、小学部3年生の10人で構成されている。S-M社会生活能力検査の社会生活年齢(SA)は年齢3歳2か月~4歳10か月(令和5年3月の結果)の児童である。算数の授業では5人ずつのグループに分かれてハバ抜き遊びができるなど、集団でルール遊びを成立させることができる。昨年度はしりとり、連想ゲームを経験し、単語を使った言葉遊びも楽しめた。そこで得た知識や技能、聞く力をルール遊びに活用する程度獲得できている一方、話す、読む、書く経験が少ない。話すことについて、持っている言葉として3語文以上で話すことができるが、会話の流れで単語のみで話している児童がほとんどであるため、文章で話すように練習する必要がある児童が多い。書く力について、条件作文ができる児童から助詞の練習をする児童、文章の運筆練習をする児童など書く力では様々である。読む活動では、拾い読みをする児童が半数ほどである。絵本を読む活動では、言葉よりも絵に注目をする場合が多く、文章の内容よりも言葉の響きやキャラクター性に注目をするため、視覚的な情報が優先されることが多い。一人一台端末のiPadを昨年度から使用して学習している児童が多く、操作や使用時のルールについてわかっている。iPadを使用することで学習に対して意欲を示し、集中して学習をする姿が見られる。

6. 教材観

へんしんシリーズの絵本では絵やストーリーを見ながら視覚的に言葉が変化していく様子を楽しむことができる。言葉遊びを楽しみながら、授業中の発言をしやすい雰囲気にすることができる。

絵本「おみせやさんでくださいな!」は大きく読みやすいポップな字体と絵で構成されており、視覚的に入る情報が多い。買い物という日常にある出来事なので、子どもの経験から発言がしやすく、自分のことを話しやすいと考える。取り上げる品物も、パンやうどん、寿司といった児童が好む食べ物から、メガネや帽子といった身近で話題を上げやすいものが多い。実物を使ったり、画像を提示したりすることで児童の興味関心を引き、子どもの発言を多く促すことができると考えられる。全体での会話で発言がしにくい児童については、iPadを活用して自分の今の気持ちや意見を画面に表出することで、相手に伝える練習をすることが可能である。内言語を増やし、自信をつけることで今後の会話、発言に繋げていきたい。

IV 教職員の研究授業

個別学習は iPad で問題を解き即座に正誤がわかる教材を使用する。その後、同じ問題を紙で解くことで積み重ねと自分で iPad と照らし合わせて自分で正誤の判断ができるようにする。書く力に合わせて、書写プリント、虫食い作文、語群の中から選んで作文、条件作文などプリントを用意する。電子と紙教材を往復することで、書くことが苦手な児童も「電子ならできる。」「書き写すだけ。」といった書くことに対しての気持ちの負担の軽減にもなると考える。

7. 指導観

この単元では、集団で「はなすこと・きくこと」を重点に活動を行う。「おみせやさんでくださいな！」で自分の経験や、みんなに知ってほしいことを発表する練習場面を多く設定する。発表の内容も大切であるが、この単元では発表するときの態度や文章で伝えようとしているかという面に注目したい。みんなの前に立って発表をする経験を積むことで、自分の思いを伝える練習に繋げていきたいと考える。

一方で聞く態度を養いたいため、今回は iPad の拍手ボタンを活用して「ともだちの話を聞いた。」ということを行動で示せるようにする。加えて、発表が終わった児童に対してよかった点を挙げて教員が褒めることで、発表した側も話すことに対して「よかった・楽しかった」という経験を積むことを目的とする。

書く力については個別学習で行う。10名の児童を教室内でさらに3班に分け、それぞれ教員を囲むことで児童にとって目の前にすぐに教えてくれる教員がいる安心感があり、個別学習が終わった際にすぐに丸付けなどで評価を得られる環境づくりを行う。あらかじめ自分のしなければならぬ個別課題の量を示しておくことで、達成感を得ることができる。そのため、個別学習の課題量は時間内で終われる程度の量に設定しておく。

8. 単元（題材）目標

- ・前に立って教員の質問に答えることができる。（知・技）
- ・絵本の音読で何度も同じ言葉を言うことで、似た別の言葉に変化することに気づく。（思・判・表）
- ・教員の発問を聞き、発表に臨む。（学・人）

9. 単元（題材）の評価規準

①評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
① プリント学習を自分で考えてすることができる。 ② 発表するときに相手の方を向くことができる。	① 自分の経験や好きなものについて語句や文章で伝えようとしている。 ② 人に伝わる程度の声を出すことができる。	① 教員の質問に対して答えようとしている。 ② 他の児童の発表の話を聞き、応援や反応をしようとしている。

IV 教職員の研究授業

②キャリア教育の観点

1 コミュニケーション	2 協調する力	3 ルール理解・遵守力
<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見を発表することができる。 指示を聞き取り、内容に応じた振る舞いができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちを表出できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 正しい言葉遣いや発言を意識することができる。 自分の順番や決められた時間を守ることができる。
4 健康管理力	5 役割遂行力	6 見通し、行動する力
	<ul style="list-style-type: none"> 他人の評価を受け入れ、振り返ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の経験を振り返り、好きな物事を選ぶことができる。

10. 単元（題材）の指導と評価の計画（全8時間、本時は第8時）

次	時	学習内容 学習活動	指導上の留意点	評価規準
1	1 2 3	<ul style="list-style-type: none"> 教員の質問に答える練習をする。 答えるのが難しい児童はテンプレートを使用する。 一人一台端末とプリントを使って個別学習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 質問は提示している絵の中から答えられるものを設定する。 「〇〇屋さんでは、〇〇が好きです。」「〇〇屋さんでは〇〇をみたいです。」というテンプレートを使用する。 児童の待ち時間が少ないように、机の位置、教員の位置を変更する。 	A① C①
2	4 5 6	<ul style="list-style-type: none"> 一人一台端末を使用して、拍手ボタンを使用する。 iPad で発表する姿を撮影して振り返りをする。 一人一台端末とプリントを使って個別学習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 聞く姿勢の練習をする。 自分の発表する姿を客観視して、自分の姿を振り返る。 児童の待ち時間が少ないように、机の位置、教員の位置を変更する。 	A① A② C②
3	7 ⑧	<ul style="list-style-type: none"> 一人ずつ前に立って発表する。 一人一台端末とプリントを使って個別学習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表後に即時評価をして、自信を持てるようにする。 児童の立つ場所にマークをし、教員は離れた位置で立つ。 児童の待ち時間が少ないように、机の位置、教員の位置を変更する。 	A① A② B① C②

IV 教職員の研究授業

11. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・絵本を読むとき、大きな声を出してスムーズに言葉を発することができる。
- ・質問に対して、みんなの前で答えを発表することができる。
- ・個別課題プリントに取り組むことができる。

(2) 本時の評価規準

- ・発表するとき相手に相手の方を向こう、背筋を伸ばして立とうとしている。(A②)
- ・教員の質問について、語句や文章で答えようとしている。(B①)
- ・他の児童の発表に、タブレット端末や拍手、コメントなどで伝えようとしている。(C②)
- ・自分に配られた個別課題を全て終わらすことができる。(A①)

(3) 本時で扱う教材・教具

- ・絵本「へんしんトンネル」
- ・絵本「おみせやさんでくださいな！」
- ・電子黒板
- ・一人一台端末 iPad
- ・個別課題プリント
- ・筆記用具

(4) 児童生徒の実態と本時の目標

	児童生徒の実態	本時の目標	支援の手だて	評価規準
A	<ul style="list-style-type: none"> ・語群の中から選んで作文ができる。 ・感想を求められて「楽しかった」などの一言で答えることができる。 ・前に立って発表することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・質問に対して、文章で発表することができる。 ・発表者に対して、拍手などで意思を伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「おすしやさんでおかいもの ○○くださいな」というテンプレートを使う。 ・拍手ボタンを発表後に押すよう声かけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・提示されたイラストをヒントに、発表内容を考えて発言している。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・条件作文が可能である。 ・質問に対して文章で答えることができる。 ・発表をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・背筋を伸ばして、相手の方向をみて発表することができる。 ・発表者に対して、拍手などで意思を伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ撮影した背筋を伸ばした自分の姿を見せる。 ・発表後に「拍手」と声かけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・提示されたイラストをヒントに、発表内容を考えて発言している。

IV 教職員の研究授業

C	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の質問を理解することが難しいが2択なら答えられる。 ・ひらがなとカタカナを読み書きすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・質問に対して、単語で自分のことを伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・提示しているイラストの中から選んで答える質問をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・提示されたイラストをヒントに、発表内容を考えて発言している。
D	<ul style="list-style-type: none"> ・語群の中から選んで作文ができる。 ・質問に対して単語で答えることができる。 ・発表時、前に立つと緊張で話せないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちに聞こえる大きさの声で発表することができる。 ・前に立って発言することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・声を出すことができたと、褒めて自信がつくようにする。 ・発表が難しい場合は、イラストに指差しをしに来てもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の方向をみて発言している。 ・提示されたイラストをヒントに、発表内容を考えて発言している。
E	<ul style="list-style-type: none"> ・他の児童がしていることに興味がある。 ・質問に対して単語で答えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・質問に対して、単語で自分のことを伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・提示しているイラストの中から選んで答える質問をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・提示されたイラストをヒントに、発表内容を考えて発言している。
F	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で、文章で受け答えがすることができる。 ・語群の中から選んで作文ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前に立って発表することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ撮影した背筋を伸ばした自分の姿を見せる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の方向をみて発言している。
G	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の質問に対して単語で答えることができる。 ・語群の中から選んで作文ができる。 ・みんなの前に立つと声量が小さくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちに聞こえる大きさの声で発表することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・声を出すことができたと、褒めて自信がつくようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の方向をみて発言している。
H	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の質問を理解することが難しい。 ・質問に対して復唱で答えることができる。 ・自分から受け答えは難しい。 ・模写や模倣がよくできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・質問に対して、単語で自分のことを伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・提示しているイラストの中から選んで答える質問をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・提示されたイラストをヒントに、発表内容を考えて発言している。

IV 教職員の研究授業

I	<ul style="list-style-type: none"> 漢字に興味があり、一部使える。 質問に対して文章で答えることができる。 前に立って発表することが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> 背筋を伸ばして、相手の方向をみて発表することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表時の姿勢が崩れた場合、あらかじめ撮影した背筋を伸ばした自分の姿を見せる。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の方向をみて発言している。
J	<ul style="list-style-type: none"> 教員の質問に対して文章で答えることができるが、自分の世界で話がそれる。 興味関心が薄い。 ひらがな、カタカナを読むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 友だちが発表しているときに注目、または耳を傾けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 友だちが発表しているときに前を向くように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表後、なんとやっていかを答えることができる。

(5) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等	評価規準	キャリアの観点
10分 導入	<ul style="list-style-type: none"> 教員の号令に合わせてはじめのあいさつをする。 予定を確認する。 『へんしんトンネル』を読む。 	<ul style="list-style-type: none"> 時計を意識できるように「10時25分になったのであいさつをします。」と声をかける。 児童に「今日は、5個活動をします。」と聞き、①はじめのあいさつ②絵本「へんしんトンネル」③絵本「おみせやさんでくださいな」④個別学習⑤おわりのあいさつをすることを発言させる。 声に出して読むように促す。 言葉の変化に気づくように、一緒に絵本を読む。 		

IV 教職員の研究授業

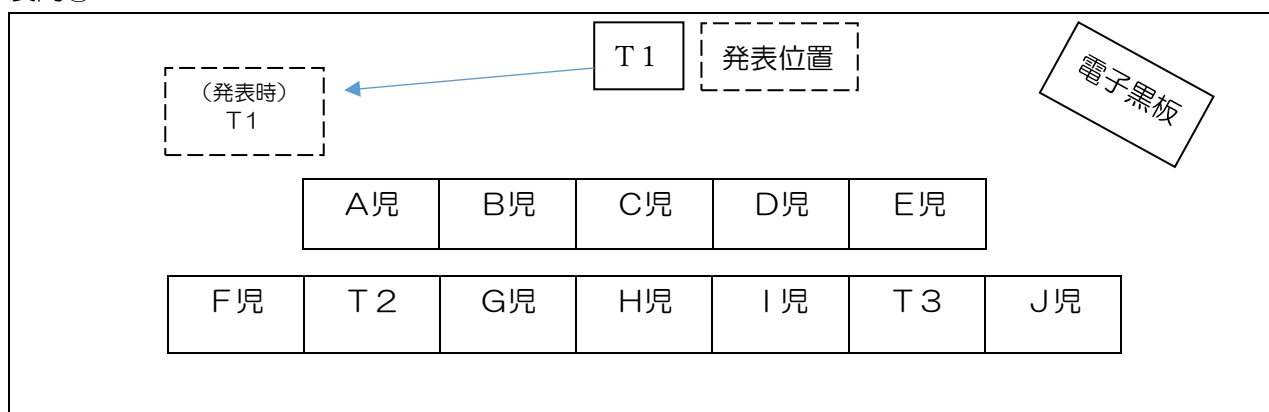
<p>15分 展開①</p>	<p>・『おみせやさんでくださいな!』をよむ。</p> <p>・ひとりずつ提示された絵、写真を見ながらクイズに答える。</p> <p>・みんなの前に立って発表する。</p>	<p>・絵本に集中するように促す。</p> <p>・一問一答形式で、児童全員にそれぞれ質問をする。</p> <p>・おすしやさんでたべたいな。〇〇くださいな。の〇〇を考え、発表することを指示する。</p> <p>・本時は5人の児童が発表する。</p> <p>・児童が発表するとき、立ち位置にマーキングをする。</p> <p>・一人一台タブレット端末を使用し、他の児童が発表したときに「拍手のボタン」を押すように指示する。</p> <p>・発表が終わった児童のよかったところを評価する。</p> <p>・他の児童が取り組んでいるときは注目するように言葉かけをする。</p>	<p>A① 行動観察</p> <p>B① 行動観察</p> <p>C② 行動観察</p>	<p>・自分の意見を発表することができる。</p> <p>・自分の気持ちを表出できる。</p> <p>・正しい言葉遣いや発言を意識することができる。</p>
<p>20分 展開②</p>	<p>・個別学習プリントをする。</p> <p>・グループに分かれて、自分用の一人一台端末・個別プリントを受け取る。</p> <p>・一人一台端末の個別課題から始め、終わってからプリントに取り組む。</p> <p>・一人一台端末の課題、プリント課題それぞれが終わったら「できました。」と教員に伝える。</p>	<p>・時計を示し、11時10分に終わりのあいさつをすることを予告する。</p> <p>・3人、3人、4人のグループを作り、それぞれのグループに教員が入る。</p> <p>・質問や丸付けはグループ内の教員にしてもらうように指示する。</p> <p>・それぞれの課題にあった書く活動のプリントを配る。</p> <p>・iPadで問題を解いてからプリントに取り組むように声をかける。</p> <p>・児童からの質問に適宜答える。</p> <p>・できたプリントは児童の実態に合わせて、ファイルに綴じる・クリアファイルに戻すことを指示する。</p> <p>・早く終わった児童はリラックスタイムで、iPadを自由に使うことも許可する。</p>	<p>A② ワークシート 行動観察</p>	<p>・指示を聞き取り、内容に応じた振る舞いができる。</p>

IV 教職員の研究授業

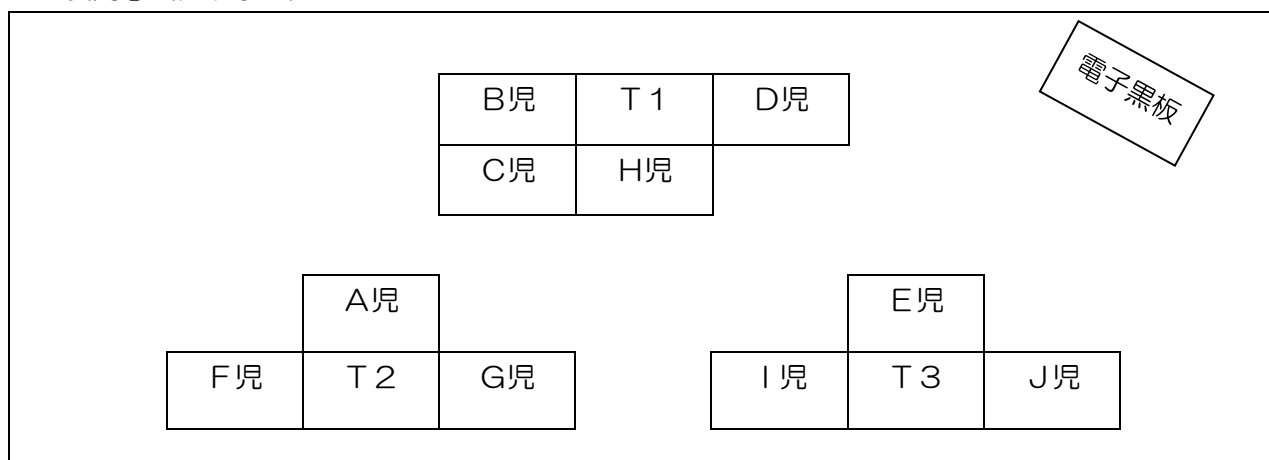
5分 ま と め	・ 終わりのあいさつをする。	・ 「11時10分になったのであいさつをします。」と時間を意識できるようにする。		
-------------------	----------------	--	--	--

(6) 教室配置等（正面を上にして、児童生徒や教員の位置、教材・教具の配置等を示す）

展開①



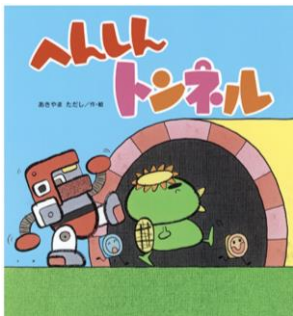
展開②（個別学習）



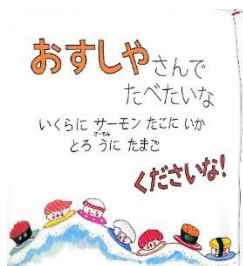
Ⅳ 教職員の研究授業

(7) 教材

へんしんトンネル・・・keynote を使用



おみやげ屋さんでくださいな！・・・keynote を使用



個別課題

さくぶん れんしゅう	なまえ	かいてあることばを ^き ついでかこう
すいどう	きゆうしやく	くえ

ことばつくり

ことばつくりのなかからことばを3つえらんで
えにあってはまるるんをたくさんつけてみよう。

このばつくり
「あさのせいかつ」

1つめ	。
2つめ	。
3つめ	。
4つめ	。

まだわからないかな？

おみせ屋さんでくださいな！

月	日	名前

① わたしは、（ ）けんたつがたいていです。

② わたしは、えんぴつ（ ）おとしました。

③ おとせんたつ、うみ（ ）いじりました。

④ ほへ（ ）、「えんぴつをみつけたら、おとしました。」

⑤ えんぴつ、たんぽぽ（ ）、「たんぽぽをみつけたら、おとしました。」

⑥ まま（ ）、「なわとりのたがひだちをみつけたら、おとしました。」

⑦ おい（ ）、「おみせで買ったおみせで、おとしました。」

ことばつくり

ことばつくりのなかからことばを3つえらんで
えにあってはまるるんをたくさんつけてみよう。

このばつくり
「あさのせいかつ」

(1) あさ はやくに めが ()

(2) トイレに ()

(3) ぬるまゆで かおそ ()

(4) タオルで かおそ ()

(5) たべおわったら はそ ()

● あらう ● さめる ● みかく

● ねる ● ふく ● いく

小学部研究授業「国語科」 研究協議

●授業者：本校教諭 石崎智也

●助言者：本校指導教諭 藤木奈緒子

聞き取り：研究支援部

◎授業者より（授業のビデオを見ながら説明、解説）

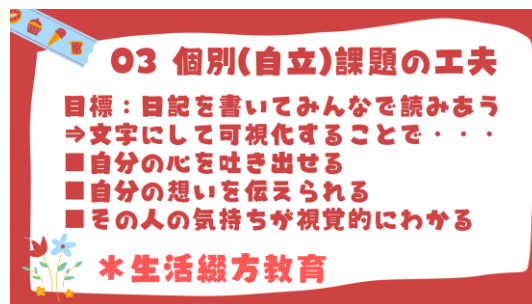
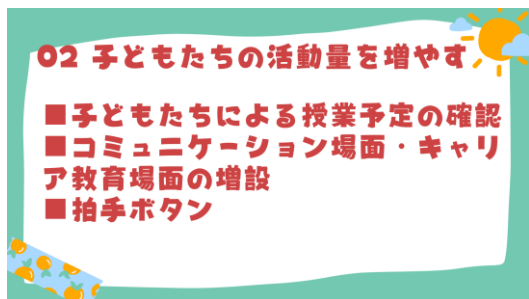
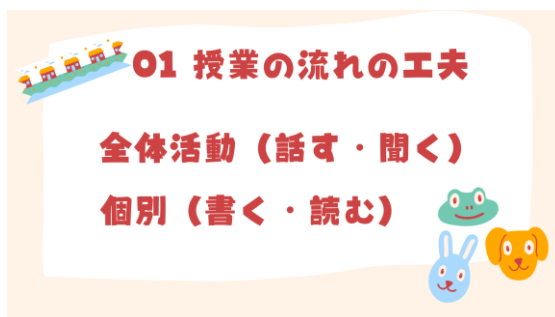
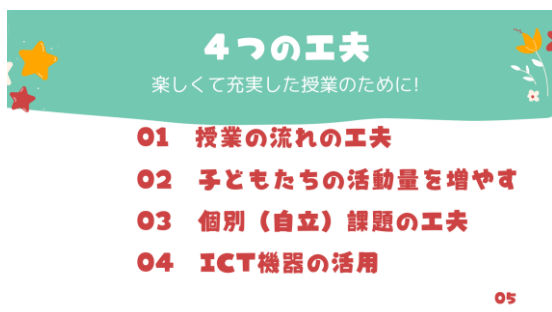
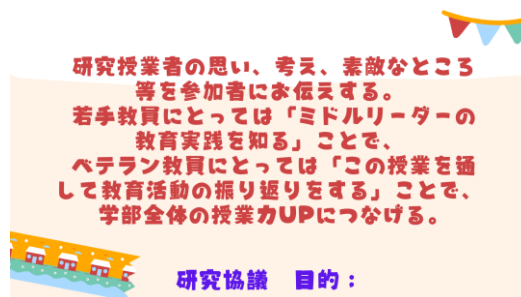
- 本日の授業は全8回の締めであり、子どもたちも積み重ねた状態で臨むことができた。
- 予定の確認は教員がひとりで読み上げるのではなく、子どもたちと一緒に確認する。自ら声を出すことで自主的な確認ができるようにしている。
- 絵本「へんしんトンネル」の変身する場面では全員で読み上げる。この後にある話す発表のための準備運動も兼ねている。声が出ているか確認もしている。
- 絵本「おみせやさんでくださいな！」を読む。何がほしいのか考えてひとりずつ発表する。発表のTV画面とは別に、TV画面と同じ画像とテンプレートのセリフを貼った移動式黒板を発表者の見える位置に置き、困ったときに見ることができるようにしている。
- 児童の机の上にはタブレットを一人一台置いている。アプリで拍手ボタンをつくり、拍手が苦手な児童も発表後にボタンを押すことで拍手ができるようにしている。
- 個別活動のときは、班に分かれる。教員が班の真ん中に座り、すぐに丸付けできるようにしている。文章を考えることが苦手な生徒はタブレットで言葉を選んで3語文をつくり、プリントに書き写す。プリントのみの児童もいる。
- 子ども主体の話す・聞く活動に取り組んだ。全体活動を通して楽しく盛り上がり、個別活動で落ち着いて集中する課題を設定した。
- 「生活綴方教育」の「子どもが描いた言葉からその子の気持ちを読み取る考え方」を参考にしている。子どもが書いた文章から本当の気持ちを汲むことができる。書くことへの抵抗を減らすための書写プリント、見てわかる事実を文章にする練習のための絵を見て文章作り、そして、自分の気持ちを表す短文づくりの3つの段階を取り入れる工夫をしている。小学生なので途中で終わってしまっても、日記や作文を書くための種まきという気持ちで取り組んでいる。

◎ 助言者からの助言

- 【授業の流れの工夫】前半が全体活動で「話す・聞く」、後半の個別活動で「書く・読む」という流れだった。毎回、流れが決まっている安心感がある。視覚支援でスケジュールを貼ることはあるが、確認するのが教員のみという場面も多い。子どもたちが自分で把握して授業に取り組める。苦手なことがある授業でも流れがわかっていることで取り組みやすくなる。
- 【子どもたちの活動量を増やす】子ども主体の活動がしっかりある。「子どもたちによる授業予定の確認」「コミュニケーション場面・キャリア教育場面（道具の片付け）の増設」「拍手ボタン」を活用することで、子どもたちが受け身だけではなく、みんなで一緒に授業を作っていた。

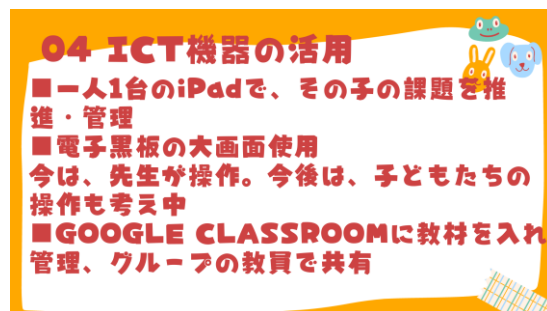
IV 教職員の研究授業

- ・【個別（自立）】課題の工夫】文字にして視覚化することで、自分の思いを伝えられる、また、その人の気持ちが視覚的になる。土佐いく子先生の「生活綴方教育」を参考にされている。
- ・【ICT 機器の活用】一人一台のタブレットや電子黒板、アプリでの教材の教員間共有など、ICT を効果的に活用されている。

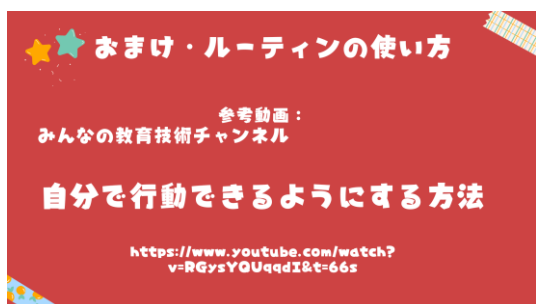


工夫のいろいろ

1. 書写	文章の書写でことばのまもり理解度をチェック 動きの言葉のみ括弧にして短文作り
2. 絵を見て文を作る	イメージできる絵とそれに関連する言葉、絵詞の言葉の選択肢を使って短文作り
3. イメージして短文作り	提示された単語を使って、短文作り



IV 教職員の研究授業



「国語科」(ことば) 学習指導案

大阪府府立豊中支援学校

T1 岸 直行

T2 石原 健二

T3 湯木 彩奈

1. 日時 令和5年10月4日(水) 第4時限(11:20~12:10)
2. 場所 第2学年 4組教室
3. 学部・学年・組 中学部 第2学年(3グループ) 7名
4. 単元(題材)名 「絵本のキャラクターになりきるアテレコ体験」

5. 生徒観

中学部1年生は40名の生徒が在籍しており、発達段階や身体的な状況に応じて4グループに分かれて課題別学習を行っている。

本時の授業は、3グループを対象としており、7名が在籍している。その中には、集団で授業に参加することが難しい生徒やその日の体調の変化や周りの環境で学習に影響する生徒もいる。指示したことに対して自主的に取り組める生徒もいるが、友だちの声や関わりが気になることがあるので、言葉かけや支援が必要な生徒も多くいる。

タブレット端末に興味を持っている生徒が多く、ことばの授業では、1人1台タブレットを渡して学習を進めている。言葉の面では、ひらがな・カタカナ・漢字の読み書きができる生徒もいるが、文字を読んだりすることが難しい生徒や相手の気持ちや表情・感情を読み取ることが難しい生徒・コミュニケーションスキルに課題のある生徒など個人差がある。

6. 教材観

本生徒たちが、言語スキルやコミュニケーション能力を高めることで、社会に出たときにより豊かに暮らしていけるのではないかと考え、今回の「絵本のキャラクターになりきるアテレコ体験」を計画した。アテレコ体験を教材にすることで、台本を正しく読む力や、ストーリーやキャラクターの声を通じて、創造力、表現力、コミュニケーション力、協働力を養い、他者の心情を考える機会が得られると考えたからである。そして、録音した声を自分で確認することができ、振り返る力も身につく、アテレコを成功させることで自信をつけることができると考えたからである。また、今回は「おむすびころりん」「いっすんぼうし」を取り上げた。この伝統的な昔話を通じて、善悪や勇気、助け合うことの大切さなどを学ぶことができる。自分でなりたい役を決めて、その役に感情移入する経験を通じて、様々な価値観に触れ、楽しみながら学び、成長してほしい。

7. 指導観

生徒が情緒を安定させながら、見通しを持ちやすくするため、授業の流れを固定して取り組んでいる(①あいさつ ②出席 ③集中課題 ④聞くトレ ⑤全体課題 ⑥クイズ ⑦お楽しみ)。「集中課題」と「聞くトレ」は、年間を通して取り組むことで、集中力、注意力、持続力をつけることを狙いに行っている。全体課題は学期ごとに内容を変えながら取り組んでいる。

本授業の自分のセリフの録音では、登場人物の気持ちを意識しながら、セリフを読むことや友だちと協力して、録音することを目標としている。セリフをスムーズに読むことが難しい生徒や声で感情を表現することが難しい生徒もいるが、セリフを生徒が言いやすいものに変更したり、セリフを短く録音したりして、教員の支援や友だちの協力を得ながら、うまくできたときの喜びや達成感を味わえるようにする。

IV 教職員の研究授業

8. 単元（題材）目標

- ・自分が決めた登場人物のセリフを言うことができる。（知・技）
- ・登場人物の感情やシーンの背景を意識しながら、演じることができる。（思・判・表）
- ・友だちと協力する態度や、成功や失敗を通じて挑戦する姿勢を養う。（学・人）

9. 単元（題材）の評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
①絵本の登場人物やストーリーを理解している。 ②自分になる登場人物を理解している。 ③登場人物のセリフを読むことができる。	①登場人物の感情を意識し、声でその感情を表現できる。	①友だちのセリフを聞こうとしている。 ②自分で決めたセリフを読もうとしている。 ③自分の読んだセリフを振り返ろうとしている。

10. 単元（題材）のキャリア教育の観点

1 コミュニケーション	2 協調する力	3 ルール理解・遵守力
・自分の意見を伝えることができる。 ・友だちと関わるることができる。	・協力できる。 ・気持ちを表出することができる。	・順番を守ることができる。 ・時間を守ることができる。
4 健康管理力	5 役割遂行力	6 見通し、行動する力
・充実した余暇を過ごすことができる。	・急な役割変更に対応し、遂行することができる。 ・評価を受け入れて、実行力を高めることができる。	・自己選択・自己決定することができる。 ・見通しを立てて行動することができる。

IV 教職員の研究授業

1.1. 単元の指導と評価の計画（全12時間、本時は第6時）

次	時	学習内容・学習内容	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
1	1	・2つの絵本の動画を見て、好きな方の絵本を決める。	・絵本の動画を見る前に、絵本のストーリーや登場人物について、簡単な導入を行う。また、視聴する環境を整える。事前に選択できる絵本の人数の上限を伝える。	A①
	2	・自分になりたい登場人物を決める。	・事前に登場人物のセリフの長さや数を伝え、自分にあった登場人物の選択を促す。	A① A②
2	3 4 5	・自分の役のセリフを読む。	感情を込めたセリフの読み方の手本を示す。セリフが難しい場合は、一部セリフを見直して、言いやすいものにする。	A③ B①
	⑥ 7 8 9 10	・自分の役のセリフを録音する。	録音中は静かにするように促す。授業に参加することが難しい生徒は、別室で録音する。	A③ B① C① C②
3	11	・完成した絵本の動画を鑑賞する。	・動画を鑑賞しながら、うまくセリフを言えたところを自分自身で振り返るようにする。	C③
4	12	・絵本に出てきた登場人物や気持ちを振り返る。	・1人1台タブレット端末を使って、オンラインクイズに取り組み、絵本に出てきた登場人物や気持ちを振り返るようにする。	A①

IV 教職員の研究授業

1 2. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・登場人物のセリフを言うことができる。
- ・友だちと協力して、録音することができる。

(2) 本時の評価規準

- ・登場人物のセリフを、台本を頼りに言うことができる。また、感情を声で表現できる【A③・B①】
- ・セリフを言う友だちの方を見ている。【C①】

(3) 本時のICT活用のポイント（活用のねらい、工夫する点）

- ・iMovieを使って、絵本の動画を作成する。大型のモニターを使って、録音する様子を全体で共有する。

(4) 児童生徒の実態と本時の目標

	児童生徒の実態	本時の目標	支援の手だて	評価規準
A	<ul style="list-style-type: none"> ・小1程度の漢字の読み書きができる。 ・見通しが持てない課題等があると不安になることがあるが、順番を最後などにすることで落ち着いて課題に参加ができる。 <p>【関連する自立活動の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心理的な安定 ・コミュニケーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分パートのセリフを読むことができる。 ・友だちのセリフを聞くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感情を込めたセリフの読み方の手本を示す。また、セリフを言いやすいものに変更する。 ・録音の前に、今日の取り組む内容とセリフを確認するようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物のセリフを強弱をつけて読もうとしている。 ・静かに友だちのセリフを聞こうとしている。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・ひらがな・カタカナの読み書きができる。 ・見通しやできないことがあるが、繰り返し取り組むことで落ち着いて参加できる。 <p>【関連する自立活動の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心理的な安定 ・コミュニケーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分パートのセリフを読むことができる。 ・友だちのセリフを聞くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感情を込めたセリフの読み方の手本を示す。 ・録音の前に、今日の取り組む内容とセリフを確認するようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物のセリフを強弱をつけて読もうとしている。 ・静かに友だちのセリフを聞こうとしている。

IV 教職員の研究授業

C	<ul style="list-style-type: none"> ・ひらがなの読み書きができる。 ・集団に参加することが難しく、別室にて活動している。 <p>【関連する自立活動の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心理的な安定 ・人間関係の形成 	<ul style="list-style-type: none"> ・セリフを読むことができる。 ・別室もしくは別日に録音に参加することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・セリフを言いやすいものに変更する。 ・別室での活動でよいことを伝え、事前にセリフを確認するようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・セリフを読もうとしている。 ・活動に参加することができる。
D	<ul style="list-style-type: none"> ・ひらがなとカタカナの読み書きができ、簡単な質問に答えることができる。 <p>【関連する自立活動の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心理的な安定 ・コミュニケーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分パートのセリフを読むことができる。 ・友だちのセリフを聞くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感情を込めたセリフの読み方の手本を示す。また、セリフを言いやすいものに変更する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物のセリフを強弱をつけて読もうとしている。 ・静かに友だちのセリフを聞こうとしている。
E	<ul style="list-style-type: none"> ・小2程度の漢字の読み書きができる。 ・見通しやできないことがあると不安定になることがある。 <p>【関連する自立活動の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心理的な安定 ・コミュニケーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分パートのセリフを読むことができる。 ・友だちのセリフを聞くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感情を込めたセリフの読み方の手本を示す。 ・録音の前に、今日の取り組む内容とセリフを確認するようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物のセリフを聞きとりやすい声で読もうとしている。 ・静かに友だちのセリフを聞こうとしている。
F	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な質問に答えたり、説明したりすることができる。 ・ひらがなやカタカナの読み書きはできるが、苦手意識があり、間違えることも多い。 <p>【関連する自立活動の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心理的な安定 ・コミュニケーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分パートのセリフを読むことができる。 ・友だちのセリフを聞くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感情を込めたセリフの読み方の手本を示す。また、セリフを言いやすいものに変更する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物のセリフを強弱や感情を込めて読もうとしている。 ・静かに友だちのセリフを聞こうとしている。

IV 教職員の研究授業

G	<ul style="list-style-type: none"> ・小1程度の漢字の読み書きができる。 ・課題に集中して取り組むことが難しく、大きな声を出して、周りに影響を与えることがある。 <p>【関連する自立活動の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心理的な安定 ・人間関係の形成 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物のセリフを読むことができる。 ・落ち着いて授業に参加することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感情を込めたセリフの読み方の手本を示す。 ・録音の前に、今日の取り組む内容とセリフを確認するようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物のセリフを強弱をつけて読もうとしている。 ・静かに友だちのセリフを聞こうとしている。
---	--	---	--	--

13. 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等	評価規準 (評価方法)
25分 導入	<p>はじめのあいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の号令で挨拶する。 <p>出席確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼名されたら返事をする。 ・簡単な質問に答える。 <p>予定確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スライドに提示された予定を確認する。 <p>集中課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カタカナ早押しアプリに取り組む。 <p>きくトレ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の言う言葉を文字で書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢を正しくして挨拶をするように言葉かけで促す。 ・よい姿勢で座っている生徒から呼名をしていく。 ・質問に答えることが難しい生徒は、選択肢を用意する。 ・内容を具体的に伝えるようにする。 ・2人ずつ行うようにして、その日のタイムをホワイトボードに記録する。 ・書ける生徒は漢字で書くように伝える。6つのイラストを用意して、その中から5つ問題を提示する。 	

IV 教職員の研究授業

<p>20分 展開</p>	<p>セリフの確認 <ul style="list-style-type: none"> ・台本を受け取る。 ・自分が今日読むセリフの確認をする。 <p>セリフを読む練習 <ul style="list-style-type: none"> ・1人1回ずつ自分のセリフを読む。 <p>セリフの録音 <ul style="list-style-type: none"> ・自席で1人ずつ自分のセリフを録音する。録音している様子は、前のモニターに映す。 ・録音したセリフをみんなで確認する。 </p></p></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・台本を配る ・読むセリフのところを色づけなどして、分かりやすくしておく。 ・T1は読む前に1人ひとりに手本を示す。 ・T2、T3は、録音中は周りにはいる生徒は静かにするように促す。その場で、録音の声を聞いて本人に確認をする。 ・気にいらなときは再度録音する。 	<p>A③・B①</p>
<p>5分 まとめ</p>	<p>次時を説明 <ul style="list-style-type: none"> ・教員の説明を聞く。 <p>挨拶 <ul style="list-style-type: none"> ・教員の号令で挨拶をする。 </p></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の内容を簡単に口頭で説明する。 ・姿勢を正しくして挨拶をするように言葉かけで促す。 	

中学部研究授業「国語科」(ことば) 研究協議

●授業者：本校教諭 岸 直行

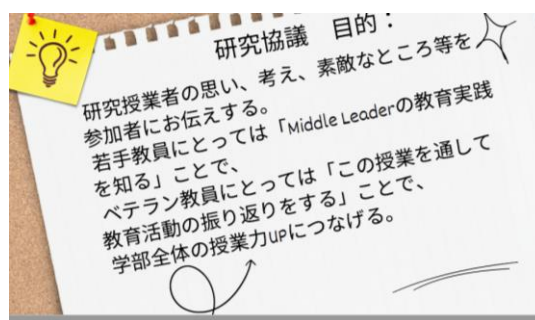
●助言者：本校指導教諭 藤木奈緒子

聞き取り：研究支援部

◎授業者より(授業のビデオを見ながら説明、解説)

- ・毎回、あいさつと出席を兼ねて「好きなお寿司は何ですか？」等の質問をしている。だいぶ慣れて答えられるようになってきた。
- ・集中課題に一年通して取り組んでいる。今は早押し課題。タブレット端末を全員に渡し、前の画面で全員の画面が見え、友だちのやっている様子を見ながら、取り組めるようにしている。
- ・「きくトレ」では、先生の言った言葉を聞いて、その生徒に応じてひらがな、カタカナ、漢字でプリントに書き取るようにしている。はじめはひらがなだった生徒も「漢字で書きたい」と、漢字で取り組めるようになった。自分で丸を付けて提出する。
- ・台本のセリフを読む取り組みでは、アムービーで絵本の動画(「おむすびころりん」と「一寸法師」のふたつ)を制作している。操作にも慣れてきて、自分でボタンを押してセリフを録音できるようになってきた。録音した声を確認しながら進めていき、声が小さかった時などには「これでいいですか？」と問いかけて、録り直すこともできる。タイミングが早い生徒には、背中を合図して読み始めてもらうなどの工夫をしている。

◎ 助言者からの助言



活動量を増やす工夫

- 1 授業スケジュールを書く
- 2 ICT機器を配る、持って行く&返却する
- 3 活動TIMEをホワイトボードに書く
- 4 発音とイメージが合っているか確認する。
- 5 ワークシートを指定された場所に提出する
- 6 自分が使用する文具を取りに行く

語彙を増やす

→聴覚から

身の回りのもの・ことを中心に、先生の発音を聞いて文字（平仮名・漢字）で表す

←視覚から

視覚情報も使うことでイメージができ、確認しながら定着していく

コミュニケーション場面の設定

簡単な質問で練習

身近な事柄を題材に毎回生徒一人ずつに同じ質問。単語で答えられるような内容になっている

台詞を実用的に

「お願いします。」
「してください。」
「ありがとうございます。」
「できました。」

集団学習の中の個別

- 簡単な質問
- カタカナ早押し
- キャリア教育
- アテレコ体験
- 聞き取り問題

集団で学ぶために個別的な指導・支援をうまく活用していく

アテレコ体験

- 1 役になりきる
 - 他の人の気持ちを考える場になる
 - 語彙を増やす
- 2 タイミングを合わせる
 - 他のものに自分を合わせる
- 3 場を共にする
 - 友だちを意識する

ICT機器の活用

学ぶ内容は同じでも、学び方を変えることで新鮮な学びになることもある。

視覚情報を加えることでより鮮明に記憶できることもある。

カタカナ早押し

Awesome idea!

参考動画：
GO!GO!3Dスクール STEAM教育とは
<https://www.youtube.com/watch?v=QgYalCaoOuQ>

The best idea!

More ideas!

Creative idea!

Awesome idea!

More ideas!

岸先生
石原先生/湯木先生
3Gのみんな、素敵だったよ。
ありがとう！
中学部 研究協議

😊

「理科」学習指導案

大阪府立豊中支援学校

T1 世本 敏高

T2 大西 弘朗

1. 日時 令和5年10月19日(木) 第5時限(13:15~14:05)
2. 場所 第2学年4組教室
3. 学部・学年・組 高等部 第2学年 Cグループ
4. 単元(題材)名 「くっつくものをさがそう」

5. 生徒観

本学年の生徒に磁石に関する質問をすると、磁石でものをくっつける遊びや黒板に紙を磁石で貼ったこと、磁石でくっつくものを探す遊びなど、個人によって興味関心や経験が大きく異なることが分かった。本学習グループの生徒たちは発達的には10までのものを数えることができる生徒がおよそ半数で、残り半数は一斉指導を受けて指示通りに実験などを行うことができる生徒たちである。実験結果などからグループで考察を行い、結果を導き出すには難しいが、教員が選択肢を伝えることで結果を導き出すことはできる生徒たちである。

6. 教材観

磁石は生徒がホワイトボードにプリントを貼るなど、生徒の日常生活になじみがある。全ての生徒は、磁石について、物を何かにくっつける物だということをとらえることができている。また、磁石と磁石がくっついたり、磁石を動かしてみたりするなど、磁石の力を利用した遊びをする生徒もいる。しかし、どのような仕組みなのかは漠然としており、磁石にはどのような性質があるのか捉えているとは言い難い。そこで磁石を教材として取り上げ、磁石の性質を使ったゲームを行って、楽しい雰囲気での学習ができるようにし、興味関心が得られるように工夫していきたいと考える。

7. 指導観

磁石が引き付ける力とその距離との関係を、磁石と磁石に引き付けられるクリップの重さをはかりで計って違いを比較することで、磁石の力と距離との性質について調べ、それらについての理解を図る。また、磁石とクリップとの距離を変えて引き付けられたクリップの重さを計るという手順で各々の生徒が実験を行い、実験に関する技能を身に付けるとともに、主に差異点や共通点に気づく態度を育成する。

IV 教職員の研究授業

8. 単元（題材）目標

- ・磁石から離れるほど引き付ける力は弱くなり、磁石に近づくほど引き付ける力は強くなるという見方ができる。（思・判・表）

9. 単元（題材）の評価規準

①評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 学びに向かう力, 人間性等
①磁石の名称を想像して答えることができる。 ②磁石に引き付けられるものをさがすことができる。	③磁石にはいろいろな形があることを知る。 ④磁石に引き付けられるか引き付けられないかを予想することができる。 ⑤磁石から離れるほど引き付ける力は弱くなり、磁石に近づくほど引き付ける力は強くなるという見方ができる。	⑥磁石の形からその用途を考えることができる。 ⑦どんなものが磁石に引き付けられるか考えることができる。

②キャリア教育の観点

1 コミュニケーション	2 協調する力	3 ルール理解・遵守力
①あいさつすることができる。 ②呼名に応じることができる。	③集団に参加できる。	④順番を守ることができる。
4 健康管理力	5 役割遂行力	6 見通し、行動する力
	⑤係り、当番、代表等の仕事を遂行できる。	⑥見通しを立てて行動することができる。

IV 教職員の研究授業

10. 単元（題材）の指導と評価の計画（全5時間、本時は第3時）

次	時	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準
1	1	・磁石について、どのような遊びやゲームをしたか思い出す。	・磁石を使った活動を設定し、学習計画をたてる。	①、③
2	2	・クリップ、アルミ缶、プラスチックなど様々なものを用意し磁石に近づける。	・磁石に引き付けられる物を調べる。	②、④、⑦
	3 本 時	・磁石とクリップの距離を変えて、くっついたクリップの重さはかりで計る。	・磁石にくっついたクリップの重さと、磁石とクリップの間の距離の違いを比べることで、本時の問題に気付かせる。	⑤
	4	・磁石の同じ極、違う極同士を近づける実験を行う。	・磁石同士がくっつくときや離れあうときの磁石の向きを比べる。	③、④
3	5	・磁石を使ったおもちゃを作る。	・磁石のどのような性質を利用しているのか気付かせる。	⑥

11. 本時の展開

(1) 本時の目標

・磁石とクリップの間の距離の違いにより磁石にくっつくクリップの重さの違いを比較する。
磁石とクリップの間の距離が大きいほど磁石のクリップを引き付ける力は弱くなっていき、磁石に近づくほど引き付ける力は強くなっていくということを理解する。

(2) 本時の評価規準

- ・磁石とクリップの距離の違いにより、引き付ける力が異なることを理解できる。
- ・磁石から離れるほど引き付ける力は弱くなり、磁石に近づくほど引き付ける力は強くなるという見方ができる。（思・判・表）

(3) 本時で扱う教材・教具

クリップ・テレビ・ビニール板・段ボール・棒磁石、iPad、はかり

IV 教職員の研究授業

(4) 児童生徒の実態と本時の目標

	児童生徒の実態	本時の目標	支援の手だて	評価規準
A	連続して課題に取り組むには集中力の持続が難しい。言葉かけを行いながら集中力の喚起を行うと課題に最後まで取り組むことができる。	磁石とクリップの距離の違いにより、引き付ける力が異なることを理解する。	実験結果の表を見て、クリップの重さがそれぞれ違うことに自分で気づき、そこから何が分かるかヒントを与える。	磁石から離れるほど引き付ける力は弱くなり、磁石に近づくほど引き付ける力は強くなるという見方ができる。
B	私語が多く、集中して課題や実験に取り組むことが難しいが、実験などは好きである。実験結果から分かることを導き出せるように集中することが課題である。	磁石とクリップの距離の違いにより、引き付ける力が異なることを理解する。	所定の手順で実験を行えるように支援する。実験結果の表から分かることを導き出せるように教員が誘導する。	磁石とクリップの距離の違いにより、引き付ける力が異なることを理解できる。
C	発語は不明瞭であるが、理解力は高い。手先は不器用であるが、実験の手順などは自分で理解できそうである。実験結果の表から本課題の目標を達成できそうな生徒である。	磁石とクリップの間の距離が大きいほど磁石のクリップを引き付ける力は弱くなっていき、磁石に近づくほど引き付ける力は強くなっていくということを理解する。	自力で実験とその結果の考察ができるように見守る。	磁石から離れるほど引き付ける力は弱くなり、磁石に近づくほど引き付ける力は強くなるという見方ができる。
D	発語は明瞭であり、疑問点があれば自分から質問することができる。自分から疑問点や分からないところを質問するなど、積極的に授業に取り組むことができる。	磁石とクリップの距離の違いにより、引き付ける力が異なることを理解する。	実験の手順が分からないときは教員が口頭で指示する。実験結果の表から何が分かるか考察できるようにプリントで選択肢を伝える。	磁石とクリップの距離の違いにより、引き付ける力が異なることを理解できる。
E	連続して課題や実験に取り組むには集中力の持続が難しいが、授業自体は楽しんで取り組んでいる生徒である。	磁石とクリップの間の距離の違いにより磁石にくっつくクリップの重さの違いを比較する。	はかりでクリップの重さを計ることができるように、集中力の喚起を促す。	磁石とクリップの距離の違いにより、引き付けるクリップの重さが異なることを理解できる。

IV 教職員の研究授業

F	比較的小となしく、物静かな生徒であるが、理解力は高い。行動はゆっくりとしている。実験の手順などは自分で理解でき、実験結果の表から本課題の目標を達成できそうな生徒である。	磁石とクリップの間の距離が大きいほど磁石のクリップを引き付ける力は弱くなっていき、磁石に近づくほど引き付ける力は強くなっていくということを理解する。	所定の手順で実験を行えるように言葉かけを行い支援する。実験結果の表から何が分かるかプリントで選択肢を用意しておく。	磁石から離れるほど引き付ける力は弱くなり、磁石に近づくほど引き付ける力は強くなるという見方ができる。
G	手先は不器用で私語が多い。実験の手順などを自力で理解することは難しいが、実験などは楽しんで取り組める生徒である。	磁石とクリップの間の距離の違いにより磁石にくっつくクリップの重さの違いを比較する。	はかりでクリップの重さを計ることができるように、集中力の喚起を促す。	磁石とクリップの距離の違いにより、引き付けるクリップの重さが異なることを理解できる。
H	利発的であり、理解力も高い。実験手順なども理解でき、一人で取り組める。実験結果の表から本課題の目標を達成できそうな生徒である。	磁石とクリップの間の距離が大きいほど磁石のクリップを引き付ける力は弱くなっていき、磁石に近づくほど引き付ける力は強くなっていくということを理解する。	一人で所定の手順で実験を行えるように見守る。実験結果の表から何が分かるか、自分で気づくまで見守る。分からないときは、プリントなどで選択肢を与えて誘導する。	磁石から離れるほど引き付ける力は弱くなり、磁石に近づくほど引き付ける力は強くなるという見方ができる。
I	長期欠席の生徒で見守りが必要である。	磁石とクリップの間の距離の違いにより磁石にくっつくクリップの重さの違いを比較する。	はかりでクリップの重さを計ることができるように、集中力の喚起を促す。	磁石とクリップの距離の違いにより、引き付けるクリップの重さが異なることを理解できる。
J	非常に声は小さいが発語がある。動作はスローペースで進めている。実験を行うには補助が必要であるが、実験の手順などは理解できる。	磁石とクリップの間の距離の違いにより磁石にくっつくクリップの重さの違いを比較する。	所定の手順で実験が行えるように適宜言葉かけを行う。実験結果の表から何が分かるか、プリントで選択肢を用意しておく。	磁石とクリップの距離の違いにより、引き付ける力が異なることを理解できる。
K	発語は明瞭であるが理解力は中程度である。実験自体は楽しんで行うことができる。	磁石とクリップの距離の違いにより、引き付ける力が異なることを理解する。	実験結果の表から何が分かるか考察できるようにプリントで選択肢を用意しておく。	磁石とクリップの距離の違いにより、引き付ける力が異なることを理解できる。

IV 教職員の研究授業

L	てんかん発作をもっている生徒でヘッドキャップをしている。理解は遅いが、実験などは大好きである。	磁石とクリップの間の距離の違いにより磁石にくっつくクリップの重さの違いを比較する。	所定の手順で実験が行えるように適宜言葉かけを行う。	磁石とクリップの距離の違いにより、引き付けるクリップの重さが異なることを理解できる。
---	---	---	---------------------------	--

(5) 本時の学習過程

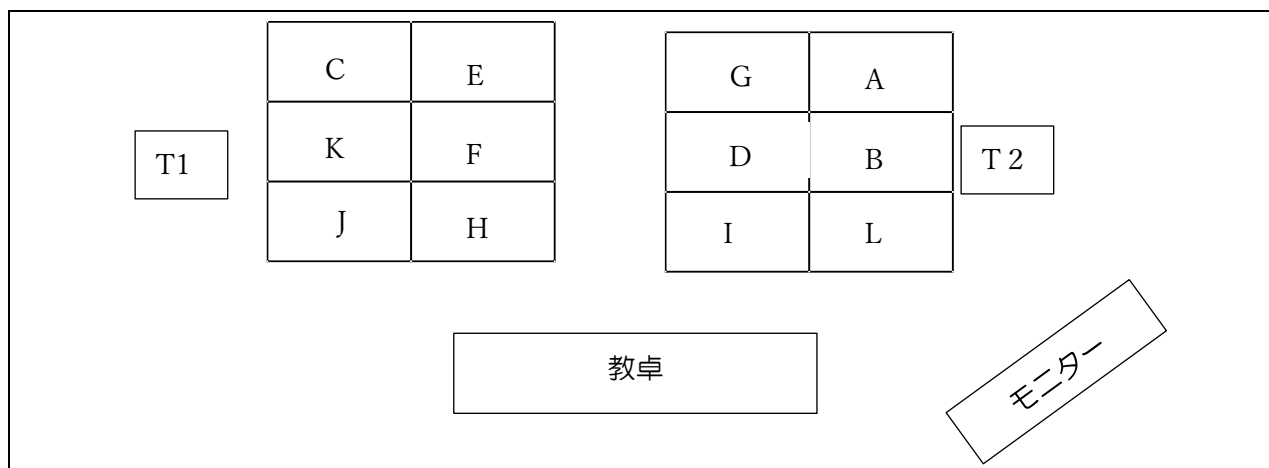
時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等	評価規準	キャリアの観点															
5分 導入	はじめのあいさつ ・教員の号令に合わせてあいさつする。 スケジュールを確認する。 ・大型モニターに表示された予定を確認する。 名前呼び ・名前を呼ばれたら返事をする。	<ul style="list-style-type: none"> 姿勢を正しくして座るように促す。 言葉とサインを使って、生徒が授業の始まりを意識できるようにする。 予定が分かりやすいように大型モニターに表示し、簡潔に説明する。 		① ⑥ ②															
30分 展開	学習問題をたてる 問題「磁石と鉄の間の距離がかわると、磁石が鉄を引き付ける力はあるか」 グループに分かれて各々実験を行う <ul style="list-style-type: none"> 磁石と鉄の間の距離をかえたとき、引き付けられるクリップの重さを各グループで記録する。 クリップの重さを計る。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td></td> <td>なし</td> <td>ちかい</td> <td>まんなか</td> <td>とおい</td> </tr> <tr> <td>きょり</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>クリップの重さ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		なし	ちかい	まんなか	とおい	きょり					クリップの重さ					<ul style="list-style-type: none"> 磁石と鉄がはなれていても磁石が鉄を引き付ける様子を見せることで、本時の問題を提起する。 磁石とクリップの間にはさむものの距離(厚み)を変えて実験を行う。 	④	③、⑤
	なし	ちかい	まんなか	とおい															
きょり																			
クリップの重さ																			
		<ul style="list-style-type: none"> 上の表をうつしだす。 																	

IV 教職員の研究授業

	<ul style="list-style-type: none"> 引き付けられたクリップの重さを発表する。 <p>各実験結果について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 磁石からはなれるほど磁石が鉄を引き付ける力は弱くなり、磁石に近いほど磁石が鉄を引き付ける力は強くなる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験について分ったことを発表する時間をとる。 実験結果を比べて学習問題について考えてみるように伝える。 	⑤	
10分 ま と め	<p>今日の振り返りをする</p> <ul style="list-style-type: none"> 気づいたことなどを振り返る。「磁石と鉄の間の距離がかわると、磁石が鉄を引きつける力はかわる」 <p>おわりのあいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員の号令に合わせてあいさつする。 	<ul style="list-style-type: none"> 気づいたことを発表して、振り返りやすいようにする。 姿勢を正しくして座るように促す。 言葉とサインを使って生徒が授業のおわりを意識できるようにする。 	⑤	①

IV 教職員の研究授業

(6) 教室配置等（正面を上にして、児童生徒や教員の位置、教材・教具の配置等を示す）



(7) 板書計画

①

問題

じしゃくとてつのきよりがかわると、じしゃくがてつをひきつけるちからはかわるか？

②

③

きより	なし	ちかい	まんなか	とおい
おもさ				

わかること

じしゃくとてつのきよりがかわると、じしゃくのひきつけるちからは、(かわる・かわらない)

④

まとめ

じしゃくとてつのきよりがかわると、じしゃくのひきつけるちからはかわる。

高等部研究授業「理科」 研究協議

●授業者：本校教諭 世本 敏高

●助言者：本校指導教諭 藤木奈緒子

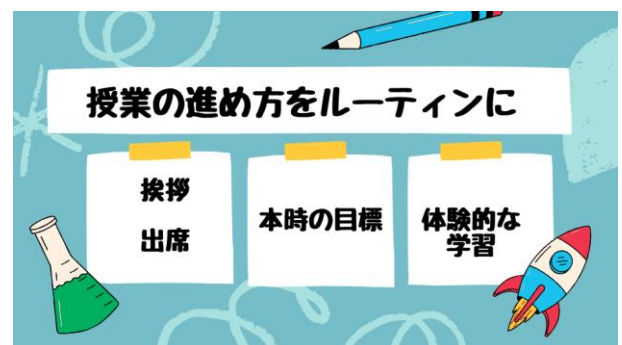
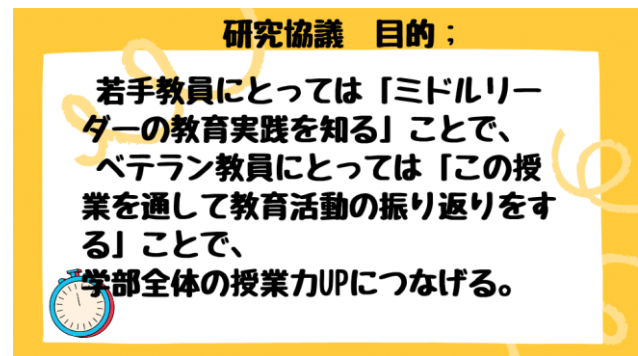
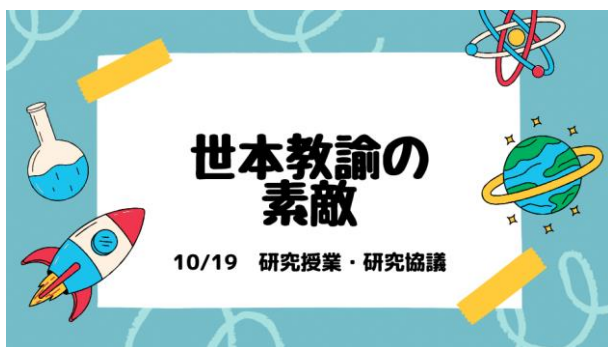
聞き取り：研究支援部


◎ 授業者より（授業のビデオを見ながら説明、解説）

- ・本時は生徒も参観といういつもと違う雰囲気の中で緊張した様子が見られたので、出席の際に少し世間話を取り入れながら緊張をほぐすようにした。
- ・スライドを提示する際、聞き取ることに注目することができるように生徒に読んでもらう場面を設定している。また、文字だけでは理解が難しかったため写真を付け加えたスライドで補足説明を行った。
- ・実験の際、クリップの数を数える活動は難しいため、重さをはかり記録する形をとった。
- ・結果について、数字だけ見て増減の変化を理解するのは難しかった。実験結果について下に写真を添付した状態で提示すると変化に気づくことができた。

◎ 助言者からの助言

- ・指導教諭の藤木先生よりスライドを使用しながら研究協議の目的や授業内でのよかった点、授業するうえで大切になる点が講評として話された。





シラバスに沿って

中学部1段階・後半


1. 風で動くおもちゃ
2. ゴムで動くおもちゃ
3. 磁石の種類
4. くっつくものを探そう

主な学習活動

- ・磁石にくっつくものかどうか、予測する
- ・磁石でくっつくものを探す
- ・くっついたものを発表、くっつくものの性質を考える

↓

学習グループの課題に寄り添う
最近接領域




最近接領域って・・・?

参考動画 <https://lifehack-animation.com/motivation-closest-area/>




体験重視

活動量と活動の質のバランス

実験での工夫



やり方・学び方
etc
での変化






観察⇒仮説⇒実験⇒考察

デデニオン（考えるカラス）


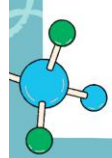
参考動画
https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005110319_00000

ICT機器の活用


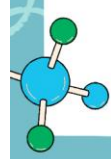
- ① 電子黒板に大きく画像を映し出す
- ② 電子黒板に書き込み
- ③ iPadのカメラ機能

Team Teaching





プランナーの想いに
寄り添いながら

生徒の学びを支援する

世本先生・大西先生 お疲れさまでした!

高2Cグループのみんな、
素敵だったよ。ありがとう!

豊中支援学校 キャリア教育6観点とその内容項目 (R3年10月28日確定版)

	項目	小項目	内容
1	コミュニケーション力 (人間関係・社会関係調整力) 略号は【コ-○】	発信	①あいさつをすることができる。 ②自分の要求・意思を伝えることができる。 ③自分の意見を伝えることができる。 ④報告、連絡ができる。
		受信	⑤呼名に応じることができる。 ⑥話を聞き、理解できる。
		関わり	⑦身近な大人に関わることができる。 ⑧友だちと関わることができる。
2	協調する力 (人間関係・社会関係調整力) 略号は【協-○】	集団	①集団に参加できる。 ②協力できる。
		自己	③気持ち(意思)を表出することができる。 ④我慢できる(耐性)。
		対人	⑤他者の要求に適切に応じたり、拒否したりすることができる。
3	ルール理解・遵守力 (人間関係・社会関係調整力) 略号は【ル-○】	社会のルール	①人を傷つけない行動をする。 ②法律を遵守する。
		公共の場面	③丁寧な言葉を使うことができる。 ④順番を守ることができる。 ⑤場面に合わせたマナーを身につけることができる。 ⑥その場に適した服装をすることができる。(TPO) ⑦場に応じて身だしなみを整えることができる。 ⑧電車、バス等を利用することができる。
		日常生活	⑨時間を守ることができる。 ⑩買い物をするすることができる。 ⑪道具を正しく使うことができる。
		食事	①食事量、食べる速さを調節することができる。 ②偏食を改善することができる。
4	健康管理力 (自己理解・自己管理能力) 略号は【健-○】	更衣	③衣類の調節ができる。
		排泄	④定期的に排泄を行うことができる。 ⑤排泄の処理を行うことができる。
		清潔	⑥手指を清潔に保つことができる。 ⑦口腔の清潔を保つことができる。 ⑧感染を予防することができる。
		生活リズム	⑨起床、就寝時刻を自己管理できる。
		運動	⑩運動習慣を身につけることができる。
		不調への対応	⑪不調を訴えることができる。 ⑫手当てができる。 ⑬自らクールダウンすることができる。
		余暇の活用	⑭充実した余暇を過ごすことができる。
		服薬管理	⑮服薬の管理ができる。
5	役割遂行力 (課題対応能力) 略号は【役-○】	認識・理解	①物を扱うときの基本動作ができる。 ②学年、クラス、グループ等に属していることを意識できる。
		遂行	③実習先や異なる年齢間での立場を理解できる。 ④係り、当番、代表等の仕事を遂行できる。 ⑤準備、後片付けができる。 ⑥安全に配慮して活動をすることができる。 ⑦急な役割変更に対応し、遂行することができる。 ⑧目的地まで移動することができる。
		評価	⑨評価を受け入れて、実行力を高めることができる。 ⑩適正に自己評価することができる。
		発展・改善	⑪役割遂行することができないときに、助けを求めることができる。 ⑫作業のミスに気づき修正することができる。
6	見通し、行動する力 (キャリアプランニング能力) 略号は【見-○】	目標設定力	①様々な情報から必要なものを得ることができる。 ②見通しを立てて行動することができる。 ③自己選択・自己決定することができる。 ④自分の長所・短所、得意・不得意を知る(自己理解)ことができる。
		将来を描く力	⑤見学や実習をとおして、卒業後の進路(生活)を考えることができる。

指導計画等に示すときの略号は、例えば【1コミュニケーションの③】の場合は最初の一文字を取って【コ-③】とする

あとがき

新型コロナウイルスも落ち着きを見せ始め、アフターコロナの生活が始まりました。一人一台端末の活用や、ICTを活用した教育など、教育現場の変化に日々苦心し、子どもたちへ還元できるよう、研究・実践に取り組んでまいりました。

日々の実践の中のごく一部ですが、本年度の研究・実践について研究紀要にまとめ、無事に発行することができました。支援教育に携わる多くの方にご覧いただき、授業づくりの一助にしていただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、研究にあたり、ご指導ご助言いただきました先生方に、心よりお礼申し上げます。

教頭 内田 紘允

